研究ノート

松本大学教育学部学生の学校体育に関する意識調査

濱田 敦志

A Questionnaire Concerning the Physical Education Experiences of Pre-Service Educators at Matsumoto University

HAMADA Atsushi

要　旨

日本では、10年に一度の割合で学習指導要領が改訂され、教育内容の見直しや指導方法や評価方法の改善が目指されている。体育科においても「めあて学習」を推進し、体育の授業が学習になったという評価がされている。しかし、学習形態の形骸化と技術保証に対する批判から、現在では「めあて学習」の推進はされず、様々な指導方法が提案されている現状である。一方で、教師が受けてきた体育授業を再生産する「残念な体育」が展開されているとも指摘されている。

松本大学教育学部は開設2年目を迎え、2期生まで入学してきた。教員を目指す学生たちが体育科の授業に関してどのような意識をもっているのかを調査した。昨年も今年も、1年次の必修の実技の授業で、学生たちの「体育って頭使うのですね」という発言が印象的であった。学生たちが受けてきた体育の授業はどのようなものであり、どういう意識をもっているのかを調査することで、「残念な体育」の再生産を防ぐ要因が見えてくる。

キーワード

体育は頭を使う　残念な体育　体育のガラパゴス化　自主性・放任　体育教師

目　次

Ⅰ. 問題の所在

Ⅱ. 研究方法

Ⅲ. アンケート結果

Ⅳ. 考察

Ⅴ. まとめ

Ⅵ. 今後の課題

文献

Ⅰ. 問題の所在

松本大学教育学部が創立されて2年目を迎えた。必修の体育Ⅰの授業を2回行ってきたが、受講した学生の感想に、「体育は頭を使うのですね」という内容のものが多数あることに驚かされた。以下にその記述を載せる。

「体を使うというより、頭を使うことが増えた。」「いままでは体を動かすことを目的に授業を受けていたが、頭を使って授業を受けるようになった。」「運動の意味や効果やねらいなど頭を使うことが多い。」「運動ができる子が良い成績というイメージがなくなった。子どもたちに考えさせる教科だと知った。」「ただ体を動かすだけの科目ではない。」「感覚でやっていたが、明確な理由があることが分かった。」「今までは体を動かすだけだったが、大学では頭を使った。」「考えないでやっていたスポーツに頭を使った。」「体育は体を動かすだけだと思っていたが、こんなにも頭を使う。運動音痴でも考えて動くだけでだいぶ違う。」「体育でこんなに頭を使うのは初めて。」「体を動かすだけだと思っていたが、けっこう頭を使うものだ。」「なぜ楽しいのかなど体育で初めて『学』という感覚になった。」

これらの学生の感想から体育科の授業では運動(活動)することが中心に考えられ、そこには思考判断が伴っていなかったことが想像される。

平成元年の指導要領の改訂に伴い、文部省は体育科の指導方法に「めあて学習」を推進した。課題解決型の学習スタイルであり、「先生、今日の体育は何をやるの?」「ドッジボールがいい!」という「日和見体育」から、「単元学習」が定着したと言われている。めあて学習を推進した一人の細江は、「体育が学習になった」と述べている。

学習になった体育科の授業を受けてきたはずなのに、なぜ頭を使わない学生がこんなにもいるのだろうか。

梅澤は、個々人の身体能力を向上させることや効率的に技をできるようにさせることを教育方法の中心に据える体育を、「20世紀型体育」と呼び、「残念な体育」と述べている[1)]。また、鈴木は、体育には「学習内容論」が不在で、「学習活動論」ばかりが先行し、授業実践が考えられてきた傾向があり、学びの考え方が変化し、指導方略も著しく変化していく中で、体育は他教科から取り残され独自の教科観を形成していると述べ、この現象を「体育のガラパゴス化」と呼んでいる[2)]。

なぜ、体育はガラパゴス化しているのだろうか。その原因を学生のアンケート調査の分析から垣間見ることができたらと考える。

Ⅱ. 研究方法

1. 研究対象

2017年度松本大学教育学部入学の学生61名
2018年度松本大学教育学部入学の学生72名
合計133名

2. 研究方法と実施時期

アンケート調査紙法
2017年8月3日
2018年8月2日

Ⅲ. アンケート結果

1. 運動有能感と体育の好感度の相関

	小学校	中学校	高校
2017	0.4822	0.5612	0.5751
2018	0.5063	0.5552	0.5864

運動有能感を5件法で、体育の好感度を10件法で調査した。運動有能感が高いほど体育の好感度も高い傾向が見られ、小学校より中学校、高校

でその傾向が強いことが分かる。

2. 準備運動は誰が行ったか

小学校　（人）

	1	2	3	4	5
2017	32	27	2	0	0
2018	53	17	0	0	1

中学校　（人）

	1	2	3	4	5
2017	12	42	4	2	1
2018	20	39	4	1	2

高校　（人）

	1	2	3	4	5
2017	14	36	4	3	4
2018	18	31	3	6	8

1教師、2体育係、3グループ、4自主的、5その他

準備運動は、小学校では教師が中学校・高校では体育係が行う傾向がある。屈伸や伸脚のときに、曲げた足の踵が浮いている学生が多数いることを考えると、しっかり指導を受けていないと考えられる。

3. 体育授業は単元として取り組まれてきたか

小学校　（人）

	1	2	3	4
2017	30	2	11	18
2018	29	4	7	27

中学校　（人）

	1	2	3	4
2017	50	2	2	7
2018	52	0	8	10

高校　（人）

	1	2	3	4
2017	43	2	2	7
2018	49	5	10	6

1 取り組まれていた
2 取り組まれていなかった
3 どちらもあった
4 分からない

小学校の記憶が曖昧であるが、おおむね単元として体育学習に取り組まれていることが分かる。特に中学校・高校は専科の授業となるため、単元学習で進められていたことが推察される。

4. 準体育教師に関するイメージ

1）小学校

2017性格○

明るい5
楽しい3
優しい3
元気4
面白い2
熱血系2、熱心、熱い
よいイメージ
好かれている
運動ができる
さわやか
かっこいい
体育好き
からだを動かすのが好き
スポーツマン
子ども好き
余り怒らない
ダメなことはダメ

2018性格○

優しい8
元気4

明るい3
活発2
面白い2
運動ができる2
子どもと一緒に楽しむ
てきぱきと動く
関わりやすい
何でもできる
子どもをよくわかっている
自発的に動かす
子どもから人気者
はきはきしている
仲の良い感じ
競うのが好き
面白く工夫、怒らない
よい先生、熱い先生
よく声をかける
名前をすぐ覚える

2017性格△

イメージない2
怖い2
覚えていない
記憶にない
一方的
おおざっぱ

2018性格△

よい子であることを強要
怖い
怒ると怖い

2017身体○

ムキムキの人
大きい
ガタイのよい男の先生
首から笛をつるしている
色黒、半袖、短パン
男の先生
力のある

2018身体○

声が大きい

2017授業○

いろいろアドバイス2
上手にできない子へアドバイス
丁寧に教える2
一緒に動く2
児童のサポート
ゲーム中心
安全を優先
とにかく平等
自由
クラスをまとめる
教師自ら体を動かし、子どもが楽しめるようにした

2018授業○

優しく教える
楽しく教える
動くことの楽しさを教える
できる子を誉め、できない子にアドバイス
寄り添う
子どもをよく観察
的確なアドバイス
できない子へのアドバイス
できなくてもある程度許してくれた
一緒に活動
たくさんの声掛け
上手な子どもを手本
体を動かすことの楽しさを教える
楽しませてくれる、運動を好きにさせる
体を動かす楽しさ、運動のおもしろさ、子どもと一緒に動く
側で見ている、安全面

子どもをよく見ている、特徴を知る
安全の配慮、運動の楽しさを伝える
混ざって一緒に楽しく
お手本を見せる、手助け
子どもをよく観察、成長を見守る
一緒に運動
子どもと一緒に楽しく遊ぶ
基本を教える
子どもと同じ目線、ゲームを楽しむ
楽しくできるように工夫

2017授業△

教師主導
先生が仕切る
全体をまとめ
細かな指示

2018授業△

指示を出し、勝手にさせない
できるようにさせようとは思っていない
足が速い子記録が高い子が褒められた
厳しい、やりたいようにできない
最初から最後まで指示
担任ができるスポーツしかやらない
できない子につきっきり
子どもを統率

2017その他○

担任13
体育の楽しさを知る
運動って楽しい

2018その他○

担任9
運動会の主任
全校の前に出る人
手の届かない存在

2017その他△

息抜き

2018その他△

専門ではない

小学校の体育教師のイメージは、担任が行う場合が多く、明るい、楽しい、優しい、元気などのよいイメージが多い。また、授業に関しても優しく楽しく教え、きめ細かな対応をしているという印象が強く感じられる。一方で、教師主導で細かな指示を出し、子どもを統率するような体育の授業も未だ存在していることが分かる。

2）中学校

2017性格○

元気2
親しみやすい2
話しやすい
フレンドリー
関わりやすい
マナー違反をこっぴどく叱る
真面目
はっきりした人

2018性格○

楽しい3
熱血2
親しみやすい
生徒の自主性を大切
生徒中心
何事にも全力
授業以外では優しい
メリハリがある
いろいろなことを助けてくれる

2017性格△

怖い10
厳しい5

厳しい(時間、服装)
むさ苦しい
冷たい
人望がない
よく怒る
覚えていない

2018性格△

厳しい10
怖い7
怒ると怖い3
ガツガツした怖さ
強気で怖い
ずっと怒っている
細かい
臭い
関わらない
苦手

2017身体○

声が大きい2
ハキハキ
よい印象
背が高い
大きい
色黒

2018身体○

声が大きい3

2017授業○

アドバイスが的確
運動の指導が好き、伸ばす
技能があって見本になる
運動が得意、器械運動で手本
一緒にやる
何でも教えてくれる
高度な技のお手本を見せる
注意すべき点を教える

2018授業○

強く頼れる
明るい2
優しい2
元気
平等に接する
面白い
まじめ
指示を出すが、生徒に考えさせる
少し専門性をもった先生が指導
できる子をピックアップ、真似をさせる
技術的なことを教える
男女の力の差を配慮、楽しく行う
理解を深める

2017授業△

厳しく指導2
基礎ばかり
傍観
きっちり練習して、ゲームをする
運動ができない子への配慮がない
基本放置

2018授業△

型にはまった授業
運動ができる／できないで態度が違う
指示を出す人
練習に重点、試合をしない
少し統率
部活担当種目は力を入れる
指導者
技術指導
競技ビシバシ
スモールステップ
部活的な要素が入ってくる

2017その他○

体育専門、体育会系
スポーツ万能
運動ができる
運動神経がいい
仲間意識, 道徳心
生徒のサポート
双方的
安全

2018その他○

やや専門性あり
得意なスポーツがある
スポーツができる
運動が得意
専門種目は丁寧に指導
運動がすごくできる
専門的

2017その他△

生徒指導
じぶんの部活の生徒とばかり話す
研究室がタバコ臭い

2018その他△

部活顧問3
生徒指導4

中学校の体育教師のイメージは、小学校同様明るい、楽しいという印象に加え、情熱的や熱血という表現が加わる。親しみやすさやフレンドリーさを感じる反面、悪い印象では、小学校ではあまりなかった、怖い、厳しいがとても多くなる。生徒指導担当という役割を担うことが多い印象である。授業では小学校より専門性が増していることをよくとらえているが、部活動の影響が大きくなることもうかがえる。

3)高校

2017性格○

面白い5
フレンドリー3
熱い2
熱血
元気2
親しみやすい2
仲が良い
楽しい
見守ってくれる
楽しくのびのび
ユーモアがある
普段は優しい
みんなで楽しむために話ができる
自己責任の概念

2018性格○

明るい3
面白い3
優しい2
フレンドリー
熱い
熱血的
アクティブな先生
男、それほど厳しくない
親しみやすい
厳しいところとそうでないところのON、OFFがしっかりしている
楽しい
尊敬
生徒との距離が近い
人気者
自由
イケメン

2017性格△

怖い6

ヤクザ怖い感じ
怒ると怖い
厳しい5
すぐ怒る2
説教が長い2
うるさい

2018性格△

怖い4
軍隊の上官のように厳しい
厳しい2
シビア
怒る
人間のクズ
理不尽
関わらない

2017身体○

ごっつい体育系
色黒
がたいがいい

2018身体○

声が大きい4
ジャージを着ている

2017授業○

生徒主体3
自主的、生徒が主体的に授業を行う
自由にさせつつルールを守らせる
指示はあまりせず、生徒に任せる
自由にやらせる
自分も運動する
丁寧に教える
女子も丁寧に教えてくれる
生徒のサポート、授業内容を考える
生徒の自主性を伸ばす
自主性に任せる
ある程度生徒に任せる

2018授業○

生徒の自主性を育む
先生は見ていて、問題があれば介入
自主的にやらせる
自由にやらせる
生徒主体
あまり口を出さない
お手本を見せる、何でもできる
生徒に自主性を重んじる
生徒と一緒に運動
足りないところの知識を与える
必要なことだけを教えあとは任せる
動きの細かいところまで指導
生徒に考えさせる、楽しい
生徒に任せる
見守る、子どもに任せる、好きにさせる
危険な事は絶対に許さない
技能を高める
生徒を自由にさせる、大まかな授業
生徒の自主性を信じて全体を見ている
個人にアドバイス
生徒の主体的な学び
一緒に運動
完璧な人が体の使い方を教えてくれる
ゲーム中心
スポーツの特徴を教える
生徒の実力に合わせて指導

2017授業△

授業の始めと終わりにしかいない3
ゆるい2
ゆるめ
細かい
自由放任主義
放任
運動ができる人にえこひいき

指示を出して、そのあと見回り
適当
傍観
関わり少ない
できる人にやさしい

2018授業△

放任主義2
放任的
まかせっきり
ただ生徒に任せてゲームをさせる
授業は緩い
やることを言って後は見守る
やることを言うだけで技術面の指導をしない
ゲームをやらせず、練習ばかり
シュートの入った数で評価
ひたすら試合
部活に力を入れ、授業はさほど
部活のようにメニューを出す
部活的な要素が入ってくる
指導案に基づいて行う
体育という感じがしない
同じスポーツ、教えてくれない
生徒を見ていない
なんでできないといわれる

2017その他○

専門的
専門的な知識
体育専門、運動できる人、ほとんど実演できる
有名大学の体育専門
どの運動もできる、得意な運動がある

2018その他○

専門性が強い
指導がうまい
スポーツが得意
運動が得意
運動オールラウンド
運動がすごくできる
スポーツが何でもできる
運動大好き
運動神経抜群、専門的な指導
何でもできる

2017その他△

生徒指導2
半分遊び

2018その他△

部活担当種目は力を入れる
部活動の先生
生活指導の先生
多忙

高校の体育教師のイメージは、中学校同様、情熱的や熱血という印象であり、親しみやすさやフレンドリーさに加え、面白いという印象が加わる。悪い印象では、中学校同様、怖い、厳しいがとても多くなる。やはり、生徒指導担当という役割を担うことが多いようである。授業では小･中学校より専門性が増していると感じている。生徒の自主性を重んじていると感じている学生が多い反面、放任と捉えている学生もいる。中学校同様、部活動の影響が大きくなることもうかがえる。授業の始めと終わりにしかいなかったり、シュートの入った数で評価をしたり、練習ばかりをやらせたりと、体育の専門家として問題のある教師も存在している。

Ⅳ. 考察

なぜ、学生たちは小学校･中学校･高校の体育では頭を使ってこなかったのだろうか。体育では教材として様々なスポーツ種目を扱うことになるのだが、どの種目にも高度な技や理論が存在する。そのすべてを学ぶ必要はないと考えるが、

運動という身体操作が中心になる体育では、頭と身体が切り離されて扱われているのではないだろうか。体育では、「分かっていてできる」「分かるけどできない」「分からないけどできる」という状態が存在する。「分からないけどできる」状態の「ただうまい人」の存在が、他教科にはない存在ではないだろうか。運動ができると感じている学生は体育に関する好感度が高いが、感覚でできてしまっているのではないだろうかと考えられる。

準備運動は教師が行ったり、体育係が行ったりして、ケガの防止や運動へのパフォーマンスの向上がなされている。しかし、屈伸や伸脚をすることが当たり前で、足の曲げ伸ばしをするときにどこの筋肉が伸びているのかなど、じぶんの身体を感じるような指導がなされてきてはいないのではないだろうか。頭で考えるというより、身体で考える、身体を感じるという身体的思考(Physical literacy)の育成をしていきたい。

小・中学校, 高校の体育の授業は単元として取り組まれ、形としては課題解決型の学習として学ばれているようである。学生の記述から数は少ないと考えられるが、高校ではやらせっぱなしの放任的な授業が存在している。また、中学校・高校になると、部活動のような授業も存在するようである。これは、体育教師が、体育科の授業の専門家ではなく、あるスポーツの専門家であるということに原因があるのではないだろうか。「めあて学習」の大原則は「いまもっている力で楽しむ」であった。この考え方が浸透していれば、部活動のような練習中心ではなく、ゲーム中心の授業が展開されているはずである。

残念な体育の再生産は、小学校教師に関しては、自分が受けてきた体育の授業の再生産をしていると考えられるが、中学校・高校の体育教師はあるスポーツの専門家で、部活動の指導をしたくて教師を目指した人も多くいると考えられる。

授業の始めと終わりにしかいなかったり、シュートの入った数で評価をしたり、練習ばかりをやらせたりと、教師としてまた体育の専門家として問題のある教師も存在している。体育のガラパゴス化の扉を開くためには、体育教師のパラダイムシフトが必要不可欠であると考えられる。自分が受けてきた教育や「技能が低いから練習をしてうまくしなければゲームにならない」という考え方からアップデートし、新たな授業観や評価観を取り入れながら日々更新していく必要があるだろう。

体育の授業はすべての子どもたちを対象にして行われるものであり、友好の者が集まった部活動とはその性格を異にする。体育授業は部活動のようにポーツをできるようにすればよいということではない。運動のおもしろさに触れ、さまざまなスポーツという文化に触れ、「観ていて分かる」という側面を大切にしていく必要があるのではないだろうか。新学習指導要領においても、「スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、運動に対する興味や関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する, みる, 支える」に「知る」を加えて、3つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る[3)]と記述されている。

体育教師のイメージは、情熱的であり、親しみやすくフレンドリーで、面白いという印象であった。その反面、怖くて厳しい印象も強い。また、体育教師の身体性は、声が大きく、大きく、色黒という特徴がある。中学校・高校の体育教師は、スポーツを行ってきたスポーツマンである。「スポーツマン」の精神的な特徴は、「明朗」「ほがらか」「くよくよしない」「決断力がある」「公正な」「紳士的な」といったイメージ、身体的な特徴は、「立派な体格の人」「頑強な」といったイメージである[4)]。「体育人」や「体育会系」という言葉があるが、そこに所属をしてきた人たちである。「体育人」はスポーツマンの特徴に加え、精神的な特徴に注目すると、「物事を複雑に考えない」「上下関係

にうるさい、権威的」「頑固さ」「統制のとれた」といったイメージが強い[5)]。

これらの身体性が、学校という組織の中で生徒指導という役割を担わされる要因になっているとも考えられる。

松田は20年前に、大学1年生166名に「体育のセンセイ」を絵に描かせ、その特徴を数量的にまとめる調査を行った。その結果、「髪が短い」「背が高い」「筋肉質」「胸板が発達している」など体格の良さを描き、「日焼け」「目つきの鋭さ」「太い首」「大声」「脳まで筋肉」などの特徴を挙げ、「体育のセンセイ」は学校教員の中で、「知的なもの」からもっとも遠い存在としてイメージされている[6)]と述べている。これらのイメージが「体育は頭を使わない」と思わせてしまっている一つの要因になってはいないだろうか。

体育という教科が富国強兵の規律訓練から発生してきている歴史があるが、いまだにその名残を引きずっているのであろうか。

Ⅴ.まとめ

学生たちが受けてきた体育授業は、単元で取り組まれ、学習されてきている。しかし、運動という身体活動が中心になるため、頭を使う学習というイメージが薄いと考えられる。また、体育教師のイメージからも知的なものから遠ざける印象を与えている。運動をできるようにするという体育から、「みる、支える、知る」という多様な関わりを楽しむ体育にしていくためには、運動の面白さを十分に味わわすとともに、学習内容を明確にし、知的な面白さを学習していく必要がある。

教育学部に入学した学生133名のアンケートから、体育の授業や体育教師のイメージについて分析をしてきたが、ごく一部のデータであり、結論付けるわけにはいかない。しかし、少なからず体育という教科には、考察してきたような傾向がいまだ残されているということが見てとれるといえるのではないだろうか。体育のガラパゴス化の扉を開くためには、体育科教育の知見をより拡散する必要を感じる。

Ⅵ.今後の課題

松本大学教育学部に入学してくる学生は、長野県が中心であり他県の学生は少ない。長野県の体育の状況という捉え方はできるかも知れない。今後もアンケート調査を継続するとともに、東信・北信・中信・南信の教育委員会の区分において差異はあるかなどさらに細かい分析を試みたい。

文献

1) 梅澤秋久,「体育における『学び合い』の理論と実践」大修館書店, (2016).
2) 鈴木直樹,「子どもの未来を創造する体育の『主体的・対話的で深い学び』」創文企画, pp.8-12 (2017).
3) 文部科学省「中学校学習指導要領解説保健体育編」東洋館出版社, p.25(2017).
4) 松田恵示,「交叉する身体と遊び」世界思想社, p.126(2001).
5) 松田恵示, 前掲書, p.128(2001).
6) 松田恵示, 前掲書, pp.129-132(2001).